



籠好きが「何年待っても」と、憧れる “幻のあけび籠”。名工・中川原信一 の仕事が秋田の自然と共に紹介

2019年3月8日発売

定価：2,300円（税抜）

体裁：A5判ハードカバー

総頁：160頁

ブックデザイン：縄田智子（レスパース）

「ぜひ、中川原さんの本を作りたい」

籠のギャラリーを営む著者、堀恵栄子の熱意からこの本のプロジェクトが始まった。昨年3月からクラウド・ファンディングをスタート。174人の協力を得て3カ月で目標額(2,000,000円)に到達した。

新しい本作りのかたちが注目を集める。

※『中川原信一のあけび籠』出版記念展開催！
2019年3月10日（日）～15日（金）
文春ギャラリーにて、本書に掲載された写真、中川原十郎・信一父子の作品を展示

本書の内容

あけび蔓細工の名人として知られた父・十郎氏の跡を継ぎ、十五歳で籠編みの世界に入り、材料の蔓採りから編み上げるまでの全ての工程をこなす数少ない職人、中川原信一。その仕事の全工程を、中川原の住む秋田県横手の美しい自然と共に記録し、カラー写真と文章で紹介する。

「中川原の籠が美しいのは、こうした見えないところに
手間隙をかけているからに他ならない」

近年、従来の民藝品好きだけでなく、若い世代や男女を問わず、自然素材の籠が人気を集めている。特に中川原の籠には全国から注文が殺到し、届くまで三年ほどかかる。なぜ、その籠にそれほど魅せられるのかを、光野桃が流麗な文章で綴る巻頭エッセイ「祈りを携える」を収録。

著者プロフィール

堀恵栄子(ほり・けえこ)

1955年、東京都生まれ。日本女子大学卒業後、(株)パルコに入社。その後、小池一子主宰「キッチン」に在籍。2014年より籠を中心に手仕事の作品を紹介する「galleryKEIAN」を自宅の一角で始める。

白井 亮(しらいりょう)

1979年、福島県生まれ。大阪芸術大学写真学科卒業後、写真家・上田義彦氏に師事。2011年に独立。主な作品に『半島のじかん』『江差 凧の刻』など。

問い合わせ先：文藝春秋 プロモーション部

Tel:03-3288-6142（直通） E-mail:pr@bunshun.co.jp